

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21100000	教育委員事 教育総務課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	政策体系に基づかないその他の事業	款項目	09	教育費	01	教育総務費	01	教育委員会費
		目指す姿		K P I	-	目標値	-			
中事業	29	主要な取り組み								
小事業	35	教育委員会運営事業		目標年度	令和6年度					

インプット	事業実施の背景にある課題	教育行政をより良いものとするためには、教育委員の知見を深めることが重要である。				
	事業目的	(1)対象(誰、何を対象にしていますか) 教育委員で構成される教育委員会の運営に係る業務全般を対象とする。 (2)目的(事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか) 定期的な会議での協議、学校訪問や先進的施策の研修をとおして広い教育視点から施策や方針などを決定し、当市の教育行政の推進・向上を図る。				
	事業概要	当市の教育行政の推進・向上を図るため、様々な活動を行っている。 ・定例教育委員会、臨時教育委員会、総合教育会議の開催 ・教育関連施策や教育委員会規則の審議、施行等				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,940	2,462	2,462	2,453	2,447
	決算額	2,181	2,100	2,102	2,102	
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	300 /		794		

アウトプット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	教育委員会会議の開催回数 ・定例会 12回 ・臨時会 1回	目標値	13	13	13	13
		実績値	13	13	13	

アウトカム	K P I(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	委員による研修参考度 4段階で評価 A(100)、B(75)、C(50)、D(25)	目標値			75	75
		実績値			0	

実績	実績	教育行政の推進を図るため、次の活動を行う。 ・定例会12回(毎月1回開催)、臨時会1回開催 ・教育委員視察研修0回 ・学校訪問 全小中学校 ・総合教育会議3回
	効果	教育委員会を毎月開催することや全小中学校を訪問することで、常に新しい情報を教育委員に提供することができた。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	開催に必要な事務を怠ることなく遂行できたため、目標を達成することができた。
	K P I分析 目標値の達成 ・未達成要因	視察研修先の調整及び委員の日程調整が出来なかったため未実施となった。
	実績からR06年度の事業の方向性	余裕を持って日程調整を行い、早い段階で日程を確定するようにする。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	21100000	教育委員事 教育総務課			
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09	教育費	03	中学校費	02	中学校教育振興費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業		K P I	-	目標値	-	
中事業	29	主要な取り組み							
小事業	82	中学校水泳授業民間委託事業	目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の背景にある課題	プールの老朽化が進み、修繕費用が高額となる為、民間委託を含めてどの手法で水泳授業を行うのが良いかを、実際に民間委託を実施して検証する。				
	事業目的	(1)対象(誰、何を対象にしていますか) ・西中学校の生徒(2年生)を対象とする。 (2)目的(事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか) ・水泳実技授業を民間プールで行うことによる可能性及び効果を対象校を増やし検証する。 ・プールの維持管理費を抑える効果。衛生管理、安全管理に係る教員の負担を軽減する効果。民間の専門の指導者による授業内容の充実を図る。 ・水泳実技授業を民間プールで行うことによる可能性及び効果を検証し、民間プール活用(複数校への拡大を含む)の方向性を決定する。				
	事業概要	民間が運営するプールを使用して西中学校で水泳実技授業を行う。維持管理費に係る経費の削減及び専門のインストラクターの指導による授業内容の充実を図る。 ○第2次美濃加茂市教育振興基本計画の重点施策				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額			3,080	3,300	
	決算額			3,080		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	200 /			0	



実 績	実績	民間が運営するプールを使用して西中学校で水泳実技授業を行った。 維持管理費に係る経費の削減及び専門のインストラクターの指導による授業内容の充実を図った。
	効果	<ul style="list-style-type: none"> ・プールを修繕するのか民間委託を進めるのか判断することができる。 ・教職員の水泳指導に関するスキルは必ずしも高くないため、専門のインストラクターに教えてもらうことで泳力が向上した。



ア ウ ト プ ット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	民間プールでの事業実施(授業計画に対する実施率(%))	目標値				100	100
		実績値				100	

ア ウ ト カ ム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	水泳実技授業を民間委託する実施可能性の検証(%)	目標値				100	100
		実績値				100	



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	民間委託での水泳授業も問題なく実施することができ、教員からの評価も良かったため民間委託を継続して実施していけることが検証できた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	警報発令時の休校にも代替日を確保し、授業計画どおり実施することができた。
	実績からR06年度の事業の方向性	より効率的で費用負担の少ない方法がないか検討しつつ、継続して民間委託により実施する。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	21100000	教育委員事 教育総務課			
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09	教育費	06	保健体育費	03	学校給食センター費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業						
中事業	31	主要な取り組み	K P I	-			目標値	-	
小事業	01	学校給食センター事務	目標年度	令和6年度					



インプット	事業実施の背景にある課題	安全・安心・確実な学校給食の提供ができるよう事業運営を行うとともに児童生徒の心身の健全な発達に資するよう食育を行う必要がある。給食用食材購入のための財源確保につながる学校給食費の確実な徴収と適正な債権管理を行う必要がある。				
	事業目的	(1) 対象(誰、何を対象にしていますか) 学校給食センターの事務全般 (2) 目的(事業を行う上で、解決すべき課題がどのように改善されるのか) 適正な事務管理と円滑な運営				
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・給食センター運営委員会及び学校給食用物資選定委員会の開催 ・学校給食主任者会及び学校給食会計担当者会の開催 ・学校給食献立作成 ・学校給食用食材の選定及び発注 ・学校給食費の調定・収納管理 ・夏休み親子料理教室の開催 				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,506	2,450	2,363	10,071	4,205
	決算額	2,129	1,971	2,013	9,388	
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	202 / 2,363				



実績	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・給食センター運営委員会 2回開催 ・学校給食用物資選定委員会 11回開催 ・「親子で給食センター探検隊」開催 37名参加
	効果	安全・安心・確実な学校給食の提供ができ、食育ができた。学校教職員の負担を軽減しつつ、食材購入の財源確保につなげることができた。 児童生徒からは、「おいしかった」「嫌いなものも頑張って食べた」など好意的な感想を多くいただいた。 教員からは、栄養教諭の食育授業により、給食の指導がうまくできたと好評であった。 保護者の試食会では、給食センター業務について理解していただくとともに、食事の大切さを理解できたと好評であった。



アウトプット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	小中学校からのリクエスト献立の実施 各小中学校: 1回 コロナ禍による休校除く	目標値	13	13	13	13	13
		実績値	3	13	13	13	



評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	各学校と連携を図り、必ずリクエスト献立を提出してもらうように促した。全ての学校からリクエスト献立の提出があり、リクエスト献立のメニューを学校給食で提供できた。児童生徒が選んだ献立で、大変喜んでくれた。また、他校のリクエスト献立についても、おいしく食べられてよかった感想を述べていた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	献立内容を工夫したり、献立の紹介文などを作成し各学校に配布し、食べてもらう工夫をしたが、小学校の主食において残食率5.3%から5.4%が増えた。児童生徒の嗜好もあるため、誤差の範囲内と考える。
	実績からR06年度の事業の方向性	引き続き、各学校へ食育につながる資料の提供を行っていく。栄養バランスを考慮しつつ嫌いな食材も食べてもらえるように献立を工夫し、残食率を減らすように努めます。

アウトカム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	学校給食残量調査の残食率(小中学校別主食とおかず各項目)の対前年増減比を0以下となる項目数	目標値	4	4	4	4	4
		実績値	0	0	1	3	